

# 【教育委員会議事録】平成29年8月定例会

開催日時	平成29年8月30日(水) 9:30~11:20
開催場所	下関市教育センター 3階中研修室
出席委員の氏名	波佐間 清(教育長) 藤井 悦子(教育長職務代理者) 児玉 典彦 林 俊作 松田 まさ子
欠席委員の氏名	欠席なし
委員及び傍聴人を除くほか議場に出席した者の氏名	教育部長 萬松 佳行 教育部理事 伊藤 信彦 教育部次長 井上 成人 教育政策課長 藤田 信夫 学校教育課長 木下 満明 教育研修課長 三井 清 学校支援課長 宇都宮 義弘 学校保健給食課長 山野 正俊 教育指導監(生徒指導推進室長) 瀬下 信二 生涯学習課長 中嶋 浩昭 文化財保護課長 沖吉 洋一郎 図書館政策課長 高森 俊明 美術館長 中村 美幸 歴史博物館長 町田 一仁 土井ヶ浜遺跡・人類学ミュージアム副館長 吉留 徹 下関商業高等学校長 木村 浩司 下関商業高等学校事務長 富田 智雄 菊川教育支所長 林 文男 豊田教育支所長 石田 正成 豊浦教育支所長 日吉 克浩 豊北教育支所長 西村 敬教 こども育成課長 川口 和子 教育政策課長補佐 岡本 誠也 教育政策課主査 村田 浩樹 教育政策課主任 峰岡 優介
傍聴人の数	1人

次第（目次）

【開会の宣告】	.....	P 3
【署名委員の指名】	.....	P 3
【教育長報告】	.....	P 3
【議案審議】		
第44号 平成29年度教育予算の補正（9月）について	.....	P 6
第45号 平成30年度使用下関市立小・中学校一般図書の採択について	.....	P 22
第46号 平成30年度使用下関商業高等学校教科用図書の採択について	.....	P 23
第47号 下関市立学校の設置等に関する条例の一部を改正する条例	.....	P 7
【報告事項】		
下関市立中央こども園及び下関市立垢田こども園の設置について	.....	P 8
平成30年度下関市立就学前施設の園児募集について	.....	P 10
平成28年度決算について	.....	P 11
平成29年度全国学力・学習状況調査における下関市の結果分析について	.....	P 17
国指定天然記念物「川棚のクスの森」について	.....	P 19
【その他】	.....	P 21
【閉会の宣告】	.....	P 25

## 【開会の宣告】

波佐間清(教育長)

それでは皆さんおはようございます。教育委員会8月の定例会を開催したいと思います。

## 【署名委員の指名】

波佐間清(教育長)

本日の議事録の署名は「児玉委員」「松田委員」をお願いいたします。

本日の日程は、日程1の議案が4件。日程2の報告事項が5件。日程3その他となっております。この日程に関連して、最初に委員の皆さんにお諮りをしたいと思います。「議案第45号 平成30年度使用下関市立小・中学校一般図書採択について」及び「議案第46号 平成30年度使用下関商業高等学校教科用図書採択について」は、地方教育行政の組織及び運営に関する法律第14条第7項の規定により、会議を公開しないことといたしたいと存じますが委員の皆様よろしいでしょうか。

(はい)

波佐間清(教育長)

それでは、議案第45号及び議案第46号は非公開とし、議事録についても非公開といたしたいと存じますが、委員の皆様よろしいでしょうか。

(はい)

波佐間清(教育長)

また、非公開とすることといたしました議案は、日程3その他が終わった後に審議を行うことといたしたいと存じますが委員の皆様よろしいでしょうか。

(はい)

波佐間清(教育長)

それでは、そのように進めてさせていただきます。

## 【教育長報告】

波佐間清(教育長)

それでは、議案第44号の審議に入る前に教育長報告を行いたいと思います。2ページ、3ページに教育長報告の資料を載せております。

最初に第67回亀山八幡宮林間学校開校式及び閉校式、8月1日から8月10日の間、10日間開催をいたしました。私自身はこれの校長であります。林芳正さんが名誉校長ということがあります。開校式と閉校式に、朝6時半からラジオ体操をして、閉校式の時には子供達に表彰をして朝食を食べて帰りました。10日間の様々な行事があるわけですが、近隣の小学校、養治小・名池小・王江小・文関小、特にこれら4校の小学生が中心に参加をいたしました。近隣からも参加をしている子供もおります。私の孫も2人、これに参加をしております。そういう中で、地域の方々のお世話によって朝、絵を描いたり、習字を書いたり、工作をしたり。それから、バス旅行で今年は福岡市の方にエジプト展、福岡市の博物館の見学をしたり、最後の日に亀山八幡宮に泊まって教育キャンプということで花火をしたり、亀山能の謡いを聞いたり、そういうようなことも体験をしています。そういう表彰が閉校式の時にあります。

それから次が青少年非行防止に係わる中学生による作文の表彰式が、8月2日、下関社会福祉センターで市長列席のもとにありました。大変作文も多く、少し中学校が偏っているなという

ころがありました、すべての学校が参加をしているわけではないようですが、素晴らしい作文を書いております。

それから、全国のコミュニティ・スクールの研究大会 in 岐阜ということで、8月3日が総会情報交換会を行いました。4日に長良川国際会議場というところで、テーマが、「地域の教育力を高め活用するコミュニティ・スクール」ということで、研究会がありました。岐阜の教育長が1時間ほど、コミュニティ・スクールの入門編ということで。今、中核市の会長が岐阜の教育長です。私は副会長ですが。岐阜の会長さんが講演をされて、全市を挙げて行っているところは下関市と岐阜市だけです。後の中核市は指定校のような格好で何校か実施しているというかたちで、今回色々な教育長とも話しましたが、やはり山口県は100%。それから、特に高等学校がまた新たにコミュニティ・スクール導入をしている。それから山口県は特に県のコンダクターを1名、下関市にも配置をしておりますが、そういう方の影響が非常に強い。そして、山口に視察に来る他県の議員、学校、教育委員会が多くあるということで、どうして山口県は100%実施なのか、と非常に関心が強いということで、今年一気に3,800、かなり今までよりも増えてるということで、これからもっと増えるであろうなということの話が随分ありました。

次に、全国の教職員連盟の教育研究大会山口大会が海峡メッセでありました。私は開会式に出席し、その後、記念講演を聴かせていただきました。皆さん良くご存じのジャパネットたかたの創業者 高田明氏の講演で、「夢持ち続け日々精進」ということで、あつという間の1時間半でした。最初はテンションが低くて、日頃はこうなんですよ、という話をされておられて、だんだん終わりになるにつれて、テンションが例の調子で上がっていく。そういう調子で自分の特技を生かしながらああいう業界でやっていった。自分自身はそんなに苦労したということを感じてはいない。工夫していくことが凄く大好きで、自分の与えられた課題に対して、どうしたらそれが売れるのか、そういうことを常に考え続けて、1歩前1歩前という感じで、英語が大変得意で学生時代から英語が大好きな人間で、会社に最初入ったところでヨーロッパへ派遣をしていただいた。そこで全世界を見ることができた。この辺が彼の1つの大きな転機になっているようでありました。楽しいお話をいただきました。

それから次が、国に要望に行ってきたわけですが、中核市の教育長会として8月7日に文科省を回ってきました。特に、小松親次郎文部科学審議官、それと高橋道和初等中等教育局長、こちらで30分ずつ中核市の要望をしてきました。特に私は、今、宇部市が取り組んでいる中学校の部活のことで、先生方の業務改善のひとつに、この事業というのは大変後ろを押してくれる事業であるので、これに予算をしっかりとつけてほしいという話と、もう1つは小学校の英語教育の専科制、もっと専科になるような英語の専門家を人材として派遣をしてほしい、そういうような話もしました。文科省の予算要求書がこの前出ていましたが、3,800名、人材を確保して国へ要求することで出ておりますが、そういう方向で進んでいるということで、中核市の要望はかなり入れられたのかなと思います。それから、終了後、中核市の色々なことに関しての意見交換をしました。

次のページが、8月8日、ポール・マデン駐日英国大使夫妻の訪問があり、テレビでもニュースになってたと思いますが、エリザベス女王の写真を見られたり、終わって、英国出身のALTの2名も参加をしていただいて、一緒に話をしました。大変話が盛り上がり、我々終わった後も30分以上ALTと話しておられました。

それから中学校の米国派遣団帰国報告で市長表敬がありました。8月17日に同席をさせていただきました。去年は私、団長で行きましたので彼らの話が大変よくわかりました。今度、9月2日午後から帰国報告会がこのセンターの大研修室でありますので、もし関心のある方はどうぞお越しいただければというふうに思います。

それから、朝鮮通信使の再現のパレードがありました、その歓迎夕食会ということで、シーモールパレスで8月19日馬関祭りに兼ねて毎年やっているわけですが、今年は釜山の方から議長が来られて正使をされました。翌日20日には市民会館で釜山の舞踊団が踊ったりするイベントに参加する舞踊団の方もこの会に参加をして、150名以上はいたと思いますが、大きな夕食会でありました。

次が中・高校生のための薬物乱用防止のセミナー。8月22日、川中公民館の講堂で、勝山中

学校の生徒が司会進行しながら発表をしておりました。

第13回下関市教育祭、8月23日、教育委員の皆さんにも参加をいただき、最後までお聞きをいただきましてありがとうございました。この中で、「感動のある学校づくり」の発表を文洋中学校、それから「地域と連携した極小規模校のチャレンジ」ということで栗野小学校の2つが発表しました。それから、「グローバル・ビレッジ派遣研修報告」ということで、これは第1回でありましたので教育委員会教育研修課の方で発表していただきました。また、私の方からの「教育長メッセージ」、それから教育講演会が、「歴史が教えてくれる日本人の生き方」ということで、“博多の歴女”ことほぎの白駒妃登美さんが素晴らしい講演をしていただきました。感動された方も多々あったようで、私も素晴らしい方だなと思いました。

最後に下関カッターレースが8月27日に下関漁港でありました。吉見小学校が毎年参加をしていただいています。今年はカッターレースの2チームから3チームが増えて、水産大学校の人達にたいへん協力をしていただいて、小学生に教えていただいているところでもあります。カッターレース終了後、白石正一郎の資風祭があり、白石正一郎を偲ぶ会に参加をいたしました。

以上で教育長報告が終わりましたが、皆さん方も参加をしていただいた教育祭について、ひと言ずつ感想も含めて言っていたいただければと思います。では藤井さんから。

藤井悦子(教育長職務代理者)

実践発表で文洋中学校と栗野小学校の報告がありました。文洋中学校のキーワードは「つながり」ということで、学年の垣根を取払って縦のつながりを強くしていくコミュニティという取組を行っていました。これで子供達の積極性を養っていると感じました。次に栗野小学校ですが、この小学校は児童数が約10人と極小規模校です。その中での活動ということで、町の方も取り込んだ地域のコミュニティとして、子供達が地域に出て行き活動していました。例えば、駅の清掃をする等、地域にサポートしてもらうだけでなく、子供達が自ら動くことによって地域に貢献していく取組をしていて素晴らしいと思いました。そして、白駒妃登美さんの講演では、先程の教育長のメッセージの中にあつた「経験から学ぶこと、人から学ぶこと、そして本から学ぶこと」ということが重複していたため、同じ様な考えを持たれていると感じました。最後に言われていた感性を伸ばす教育をして頂きたいという言葉がとても印象に残りました。

波佐間清(教育長)

ありがとうございました。では児玉委員さん。

児玉典彦(教育委員)

私は、この23日午前中に山の田中学校区の小中合同研修会で講演をしました。その最後に教師の条件として「学び続けることがとても大事なんですよ」という話をしました。その後、教育長さんのメッセージの中で、「教師は学び続けなければならない」ということを言ってもらえたので、こちらもとても嬉しく思いました。また、教育長さんが「学び続ける教師」ということを前面に出されたことを、とても大事なメッセージだなと思いました。また、白駒さんの講演では、「志」ということについてのお話がとても感銘を受けました。私ももう少し「志」について考え直してみようかなと思ったところです。以上です。

波佐間清(教育長)

はい。ありがとうございました。では松田さん。

松田まさ子(教育委員)

白駒さんの講演についてですけれども、神話から天皇家が延々と続いている歴史を持つ日本という国に凄く誇りを持っていらっしゃるということで、礼節を尽くして「志」をお持ちと言って、で、また「夢」と「志」の違いが、とても面白いなと思いました。「夢」は個人個人のものであり、「志」は個人が肉体がなくなっても受け継がれていくというものが「志」です、という話を、なるほどそうだな、と思いました。あと、藤井さんが先ほど言われていましたけれども、どうして

も知性とか理性に捉われがちですけれども、真善美の感性を磨くことを先生達にお願いされていたのが凄く印象的でした。そして、研究発表ですが、素晴らしい取り組みに対して、期待以上の成果が上がっているということで、両校とも感動をもって見て聞いて、凄くみなさん達の取り組みに感心していたのですが、ものすごくわかりやすくきちんとまとめてあって、それまで色々苦労されて資料を作られたのだらうなと思うと、下関市内だけではなく、市外や県外でも何かの形で発表する場があればいいなと思いました。以上です。

波佐間清(教育長)

はい、林委員。

林俊作(教育委員)

私、別の用がありまして開会式だけでご無礼致しました。ただ、後から今回の教育祭について色々な方からお話を聞く機会がありまして、先ほども皆様言われていた教育長のメッセージ、そして白駒妃登美さんの講演の話は、色々なところでお話を聞かせていただきました。きちんと時間を取って参加すべきであったなと思っているところです。

波佐間清(教育長)

はい。ありがとうございます。それでは、報告を終わりたいと思います。日程1の議案審議に入りたいと思います。

#### 【議案審議】

議案第44号 平成29年度教育予算の補正(9月)について

波佐間清(教育長)

「議案第44号 平成29年度教育予算の補正(9月)について」学校保健給食課、お願いをいたします。

山野正俊(学校保健給食課長)

学校保健給食課の山野でございます。よろしく申し上げます。それでは、「議案第44号 平成29年度教育予算の補正(9月)について」ご説明をいたします。この度の補正は、中部学校給食共同調理場給食調理等業務委託における債務負担行為の設定の補正でございます。平成30年度から平成32年度の3会計年度における給食調理等業務委託費に伴う1億9,656万円の債務負担行為限度額の設定を行うものでございます。中部学校給食共同調理場につきましては、現在市職員である給食調理員、正規職員8名、非常勤職員11名、日々雇用職員8名の27名を配置し、市の直営で業務を行っておりますが、学校給食共同調理場につきましては合併後、集中改革プランにおきまして民間委託化を推進することとされており、市内にあります中部学校給食共同調理場以外の5つの共同調理場、滝部、豊浦町、南部、黒井、豊田、この5つにつきましてはすでに民間委託を実施しているところでございます。この流れの一環といたしまして、この度中部学校給食共同調理場給食調理等業務を、平成30年4月から外部委託をしようとするものでございます。なお、中部学校給食共同調理場におきましては、現在、養治小学校、名陵中学校、日新中学校、向洋中学校、川中中学校、長成中学校、垢田中学校、山の田中学校の小学校1、中学校7の8校に対して、合計で約2,700食を提供しておりますが、この外部委託による学校の変更等はございません。以上簡単ではございますが、教育予算の補正についてご説明をさせていただきました。よろしくご審議をいただきますよう、よろしく申し上げます。

波佐間清(教育長)

ただいま、説明がございましたが、ご質問、ご意見等がありましたらお願いをいたします。はい。

児玉典彦(教育委員)

外部委託は時代の流れで仕方がないと思うのですが、すでに外部委託されている共同調理場の給食の質が下がったとか、そういうことはないでしょうか。大きな共同調理場が民間委託された時に子供達の食の質が下がるということがとても心配なのですが。

波佐間清(教育長)

はい、課長。

山野正俊(学校保健給食課長)

これまで過去5つの調理場につきまして、順次委託化してきておりますが、その際に給食の質が落ちたとか、給食が遅れるとか、そういうことは一切聞いておりません。民間にお願いしたから格段に良くなったということもございませんし、同等のレベルを維持していただいているというふうに聞いております。

児玉典彦(教育委員)

では、食の安全を含めてよろしくご指導の方お願いします。

山野正俊(学校保健給食課長)

はい。

波佐間清(教育長)

他にございませんか。よろしいでしょうか。

(はい)

波佐間清(教育長)

ないようでしたら、議案第44号について承認としてよろしいでしょうか。

(はい)

波佐間清(教育長)

はい。それでは承認いたします。

議案第45号及び46号は先ほど申しましたように最後に回させていただきます。

**【議案審議】**

議案第47号 下関市立学校の設置等に関する条例の一部を改正する条例

波佐間清 (教育長)

「議案第47号 下関市立学校の設置等に関する条例の一部を改正する条例」、こども育成課、お願いをいたします。

川口和子(こども育成課長)

こども育成課の川口でございます。本日はよろしくお願いいたします。議案第47号についてご説明させていただきます。本議案は生野幼稚園、向山幼稚園、垢田幼稚園を廃止しようとするものでございます。本市におきましては、「下関市立就学前施設の整備基本計画」を平成27年3月に定めておりまして、これに沿った就学前施設の統廃合、また整備を進めているところでございます。生野幼稚園と向山幼稚園につきましては、現在、この教育センターの隣接地に建設中の幼保連携型認定こども園の統合対象園となっております。また、垢田幼稚園につきましては、垢田保育園と統合いたしまして、こちらも幼保連携型の認定こども園とする計画でございます。両

こども園につきましては、平成30年4月の開設を目指しておりました、また、これに伴う園児募集がこの10月から開始するというのもございますので、今回、議案として出させていただいた次第でございます。教育委員会の議案が通りました後に、9月の市議会の方にも議案として提出する予定となっております。以上でございます。よろしくお願いいたします。

波佐間清(教育長)

ただいま説明がございましたが、ご質問、ご意見がありましたらお願いいたします。はい、林委員。

林俊作(教育委員)

垢田幼稚園についてもう1度説明をお願いします。

川口和子(こども育成課)

垢田幼稚園につきましては、今年度の新入園児がどなたもいらっしゃらなかったという状況ではございます。ただ、もともと就学前施設の整備計画上、垢田保育園と統合いたしまして、垢田保育園の園舎を使ってこども園にするということの計画を作っておりました。ちょうど良いタイミングかとも思いますので、今年度、垢田保育園の方も少し改修の手を入れまして、30年4月より、これを機会に垢田こども園とするということで、垢田幼稚園の方がなくなりましても、1号認定の方の受け入れ先の確保を図りたいというものでございます。

林俊作(教育委員)

はい。了解いたしました。ありがとうございます。

波佐間清(教育長)

他にご意見、ご質問がありましたらお願いいたします。よろしいでしょうか。

(はい)

波佐間清(教育長)

それでは、特にならなければ議案第47号について承認としてよろしいでしょうか。

(はい)

波佐間清(教育長)

それでは、承認いたします。

**【報告事項】**

下関市立中央こども園及び下関市立垢田こども園の設置について

波佐間清(教育長)

続きまして、報告事項に入ります。最初にこども育成課に関連するものとして、「下関市立中央こども園及び下関市立垢田こども園の設置について」こども育成課の方からお願いいたします。

川口和子(こども育成課長)

では、引き続きまして、資料の20ページでございます。ご説明させていただきます。この報告につきましては、先ほどの議案第47号に係るものでございますけれども、現在、先ほど申しました通り、この教育センターの隣接地に整備しております、正式に名称としては中央こども園ということにさせていただきましたが、生野幼稚園、向山幼稚園、高尾保育園、大坪保育園、千草保育園の5園を統合した幼保連携型認定こども園ということになります。施設の概要といた

しましては、敷地面積が6,600㎡、延床面積が2,084㎡となっております、建物構造は、鉄筋コンクリート造の2階建てで、工事の竣工は平成30年2月に完成する予定であるということでございます。この施設につきましては、幼保連携型認定こども園と子育て支援センター、また、発達支援の機能を含む複合施設となっております、発達支援の機能としましては、幡生本町にあります下関市こども発達センターの事業の一部でございます、児童発達支援の「どーなつ」を、こちらの施設に移しまして、実施していく計画としております。それから次に、先ほど簡単に申しましたけども、垢田こども園につきましては、垢田幼稚園と垢田保育園を統合するものでございまして、園舎としては垢田保育園の方を使わせていただくということで、今年度、トイレ等の改修など少しリニューアルを図りましてこども園として開設する予定でございます。このこども園の設置に関することに関しまして説明会を実施しております、資料にもございますとおり、全部で6回ほど、昨年度5回、今年度1回を開催したところでございますけれども、保護者の皆様からはおおたはご理解いただけているものと認識しております。また、認定こども園の設置や運営・管理につきましては、市長の権限のもとで行うこととなっておりますけど、教育施設として今後も教育委員会のご意見等もいただきたいと考えております。以上でございます。

波佐間清(教育長)

ただいま報告事項がありました、本件について何かご質問、ご意見がありましたらお願いいたします。はい、林委員。

林俊作(教育委員)

在籍の保護者は先ほども言われていましたが、概ね了解済みという考え方でよろしいのかということをもう1回確認しておくのと、これから新しく入ってくる方は教育センター横の中央こども園で40名ということでありますけれども、新しい施設へ行きますということで、皆さん納得されているということで、廃園については全く問題ないという取り扱いでよろしいんですね。

波佐間清(教育長)

はい。こども育成課。

川口和子(こども育成課長)

現在、生野幼稚園と向山幼稚園で4歳児がいるわけなんですけれども、この方達につきましては、実は28年度、29年の園児募集についてどうするか、という問題があったのですが、是非こども園の方に移りたいということで入園を認めたという経緯がございますので、そちらの方達はもう当然として年長の時にはこども園に行くという前提で、現在幼稚園に通ってらっしゃるということでございます。それについては確認書も取らせていただいているという状況でございます。ただ、保育園につきましては、こども園に行かれる方については優先的に認めるということで、お話はさせていただいておりますけれども、保護者の方によっては別の園を希望される方もいらっしゃるかもしれないと思っております。保育園も地域によって入園が難しい場所もございますけども、中央こども園に行かれるということであれば優先的なんですということで、ご説明させていただいております。ごく一部の保護者の方で、既存の園を少し残せないのかというようなご意見が出た園もありますが、ごく一部の方と思っておりますし、各園で30年4月にはこども園の方に統合されるからということで入園申込みの際にはご説明はさせていただいたと思っております。都合によって他の園を希望される方は、それはこちらの方で調整はしたいと考えております。特に高尾保育園につきましては、元々が最後まで卒園するところではないと、要は0、1、2歳専門の保育園であったということもありまして、そもそも入った時に、必ずしも中央こども園に行くかどうかということもわからないところではございましたので、この10月から募集開始と申しましたけども、9月中に希望について取らせていただこうと考えております。以上でございます。

林俊作(教育委員)

はい、ありがとうございました。わかりました。

波佐間清(教育長)

他の委員さんありますか。はい、それではご意見がないようでしたら報告済みといたします。

**【報告事項】**

平成30年度下関市立就学前施設の園児募集について

波佐間清(教育長)

続きまして「平成30年度下関市立就学前施設の園児募集について」お願いをいたします。こども育成課お願いします。

川口和子(こども育成課長)

引き続きご説明させていただきます。平成30年度の園児募集についてでございます。資料が21ページとなっております。募集スケジュールについて、まずご説明させていただきます。幼稚園等に通われます1号認定のお子様についてでございますけれども、公立の幼稚園とこども園につきましては、例年通り10月24、25、26日の3日間の受付期間を設けております。これにつきましては各園で受けを行うこととなっております。私立につきましては、各園が定められます期間で受けを行いますので、市による直接的な関与は特にはございません。一般的には公立よりも早い時期に募集が行われているということでございます。保育園等に通う2号・3号認定のお子様についてでございますけれども、こちらは市が利用調整を行うため、公立・私立ともに同じスケジュールでの募集となります。受付期間は10月10日から11月10日までの1か月となっております。この間に申請のあった方について、最初の利用調整を行います。その後、追加募集を2回実施しまして、それぞれの期間ごとに利用調整を行います。追加募集の1回目が11月13日から12月8日、追加募集の2回目は12月11日から翌1月31日までとなっております。ただ、入園の理由としまして、求職活動を理由とされます方につきましては、どうしても優先度が低くなるということがございますので、早く申し込みをされましても追加募集の2回目、つまり12月11日から翌1月31日までの方達と一緒に利用調整となるということでございます。この募集についての周知方法につきましては、例年どおり、市報を中心に市のホームページ、また子育てアプリ等を活用することとしております。市報につきましては10月1日号で最初のお知らせをしますが、追加募集についても毎月出して行く予定にしております。募集する公立の園についてということで、3番目に全体を書かせていただいておりますが、幼稚園は8園、保育園は10園、認定こども園が9園となっております。このうち中央こども園、垢田こども園の設置については先ほどご説明したとおりでございます。入園にかかる申請書の提出先は第1希望の園ということになりますけれども、募集時期に未設置である中央こども園につきましては、園に出すことができないので、1号認定子どもについては日にちを限っていることから、こども育成課の方で受けをする予定でございます。2号、3号認定につきましては、募集期間が長いということもございまして、統合対象の大坪、千草、高尾保育園で行うこととしております。垢田こども園は1号・2号・3号ともに、現在の垢田保育園の方で受けをさせていただきます。募集停止についてでございますけれども、本年度募集停止となった室津幼稚園に加えまして、今回、第五幼稚園も本年度新入園児が10人未満で、かつ全園児数が15人以下となったため、来年度の園児募集を中止しまして、在園児が卒園するのを待って休園となります。統合園以外の休園・廃園につきましては、現在休園中の内日幼稚園のほか、彦島第2保育園、菊川こども園田部分園、これは本園の方に統合されるんですけど、今年度末で廃園する予定がございまして。それと、豊田西保育園についても今年度末で休園となるということで準備を進めることとしております。これら休廃園につきましては、それぞれの園で説明会を実施しておりまして、保護者の了解は得られたところでございます。その他でございますが、川中幼稚園におきまして来年度より3年教育を開始する予定としております。以上でございます。

波佐間清(教育長)

ただいま、就学前施設の園児募集についての説明がございました。これにつきましてご意見、ご質問がありましたらお願いをいたします。特にありませんか。

(はい)

波佐間清(教育長)

それでは、ご意見がないようですので、本件につきまして報告済みといたします。こども育成課の皆さんありがとうございました。

**【報告事項】**

平成28年度決算について

波佐間清(教育長)

それでは、「平成28年度決算について」お願いをいたします。はい、萬松部長。

萬松佳行(教育部長)

それでは資料の9ページをお願いいたします。平成28年度の教育委員会の所管に係ります教育費の決算について、ご報告をいたします。まず、教育費全体の決算額ですが、一番上のところにありますが、大学費、こども育成課及びスポーツ振興課所管分を除く教育費の予算額は87億4,611万4,273円で、これに対しての決算額が81億7,775万9,516円であります。差額につきましては、不用額が5億6,835万4,757円でありまして、全体の執行率は93.50%となっております。

それでは各項の単位でご説明をいたします。まず、教育総務費でございますが、予算額が10億8,376万9,000円に対しまして決算額が10億1,301万1,563円であります。差額につきましては、不用額が7,075万7,437円でありまして、不用額の主な理由につきましては事務局の職員の人件費が見込みを下回ったことによるものでございます。主な事業内容につきましては、教育委員会及び事務局職員の人件費や生徒指導推進、それからコミュニティ・スクールに係る経費等となっております。

次に小学校費でございます。予算額が20億4,278万8,600円に対しまして、決算額は18億6,195万2,451円であります。差額につきましては、不用額が1億4,232万6,149円でありまして、不用額の主な理由につきましては小学校の耐震補強工事の入札残によるものでございます。主な事業内容は小学校に勤務する職員等の人件費、それから教材整備に係る経費、就学援助に係る経費、それから耐震補強に要した経費となっております。

続いて、中学校費でございます。予算額11億1,280万6,360円に対しまして、決算額が9億8,590万8,244円でございます。差額につきましては、不用額が1億2,689万8,116円であり、不用額の主な理由につきましては、中学校耐震補強工事の入札残によるものでございます。主な事業内容といたしましては、中学校に勤務する職員等の人件費、それから教材の整備に係る経費、就学援助に係る経費、そして耐震補強に要した経費となっております。

続いて高等学校費でございます。予算額は6億7,702万1,000円に対しまして、決算額は6億5,037万9,366円でございます。差額につきましては、不用額が2,664万1,634円でありまして、不用額の主な理由につきましては、下商の屋内運動場耐震工事の入札残によるものでございます。主な事業内容につきましては、下商に勤務する教職員に係る人件費、それから施設整備、教材の整備に係る経費となっております。

では、10ページをお願いいたします。一番上段でございますが社会教育費は、予算額24億5,330万8,313円に対しまして、決算額23億5,889万6,312円となっております。差額につきましては、不用額が9,441万2,001円でございます。不用の主な理由につきましては、歴史博物館の建設工事の入札残、それから運営経費等の執行残によるものでございます。

主な事業内容につきましては、生涯学習課等の職員の人件費、それから生涯学習の推進に係る経費、公民館・図書館・博物館・美術館等の施設の管理・運営に係る経費。それから、昨年度開館いたしました歴史博物館の建設に係る経費となっております。

それからページをめくっていただいて11ページになります。最後に保健体育費でございます。予算額14億1,493万1,000円に対しまして決算額13億761万1,580円でございます。差額につきましては、不用額が1億731万9,420円であり、不用額の主な理由につきましては、給食費に係る就学援助日数が見込みを下回ったことによるもの、また、給食に係る賄材料費が見込みを下回ったことによるものでございます。主な事業内容は学校保健給食課及び給食調理員等に係る人件費、それから学校保健管理に係る経費、学校給食実施に係る経費、就学援助に係る経費となっております。

次に別冊でご説明したいと思います。お配りしております「平成28年度 教育委員会の主要な施策について」こちらの冊子の方でご説明させていただきます。まず、表紙をめくっていただきまして、表紙の次に目次がございます。事業が13事業ございますが、この中から特に説明を要する事業を抽出して説明をさせていただきます。

1ページめくっていただいて、まず1ページをお願いいたします。「適正規模・適正配置事業」でございます。少子化等によりまして学校が小規模化する中、学校統合などを進めまして、よりよい教育環境を実現することを目的としております。平成28年度は、保護者及び地域との合意に基づきまして、旧下関市の神田小学校と桜山小学校との統合準備を進めまして、平成29年4月に両校を統合いたしました。統合後は引き続き、児童に対してきめ細やかな支援に努めるとともに、学校とのより一層の情報共有を図っておるところでございます。資料の1番下の決算情報をお願いいたします。予算額は725万円に対しまして、決算額は587万7,923円となっております。主な支出といたしましては、統合に伴います物品の移転業務及び不用品の処分業務等の委託料が304万8,840円となっております。今後も、第2期の下関市立学校適正規模・適正配置の基本計画に基づきまして、保護者等との意見交換会を積極的に開催いたしまして、学校統合等の合意形成に引き続き努めてまいりたいと考えております。

次にめくっていただきまして2ページをお願いいたします。「不登校児童・生徒の適応指導の充実事業」でございます。不登校の児童生徒に対しまして、教育支援教室での適応指導や訪問支援を行いまして、中段にございます事業の目標指標欄にありますとおり、平成28年度は通級生の68%が学校復帰または進学を果たしております。それから1番下段の決算情報をお願いします。予算額につきましては3,920万1,000円に対し、決算額は3,657万2,603円でございます。主な支出は教育支援教室の専門指導員、及びガイダンスアドバイザー等の報酬でございます。金額が2,962万440円でございます。本事業では平成26年度から小月地区及び川中地区に分室を開設いたしまして、距離的に通級が困難であった生徒の支援が進むなど、不登校児童生徒への適応指導の充実を図ってまいりました。今後も、専門指導員のスキルアップ、それから個別の支援訪問の充実等を図りまして、不登校の児童生徒の学校復帰率を高めていく必要があると考えております。

それから、4ページをお願いいたします。「外国語教育向上事業」でございます。平成32年度から小学生の3・4年への外国語活動や、5・6年生への外国語科の導入が実施予定でございます。その準備といたしまして、教職員への英語に関する研修・実習、それから外国語指導助手ALTの学校への派遣の実数を増加させまして、英語教育の充実に努めてまいりました。平成28年度におきましては、ALTを4人増員しまして、合計で13人態勢としております。中段に事業の目標指票がございます。そこにありますとおりALTによる授業回数を月1.3回から2.2回へ増加させたところでございます。今後におきましても教職員の研修の充実に加えまして、ALTの増員、それから派遣の拡充によりまして、英語教育力を向上させ、世界に通じる人材の育成に努めてまいりたいと考えております。下段の決算情報をお願いいたします。予算額につきましては6,413万4,000円に対しまして、決算額は5,828万4,898円でございます。主な支出としては、ALT13人に係る報酬、または旅費等の招致経費5,809万8,173円でございます。

次に5ページをお願いいたします。「小・中学校の教育環境整備事業」でございます。児童生徒

が学びやすい学校環境を整えるために夏の暑さ対策として、扇風機の設置を実施をしております。平成28年度から平成31年度の間で、小・中学校の普通教室、通級教室のすべてに扇風機を設置する計画をしております。初年度であります昨年度、平成28年度におきましては小学校47教室に140台。中学校81教室に219台を設置をいたしました。下段の決算情報をお願いいたします。予算額につきましては、工事請負費の917万5,680円に対しまして、決算額は同額でございます。なお、1教室あたりの設置の単価は7万1,685円となっております。

次に8ページをお願いいたします。「学校・家庭・地域の連携協力推進事業」でございます。この事業では、ふるさと下関協育ネット及び放課後子供教室を実施するとともに、各地域の実情に応じた教育支援活動を行っておるところでございます。コミュニティ・スクールと連携をいたしまして、より充実した教育支援活動となった地域もありますが、未実施の地域におきましては、地域住民の皆さんの協力者の発掘、確保が課題でございます。下段の決算情報をお願いいたします。予算額は1,201万5,000円に対しまして、決算額は1,146万2,392円でございます。主な支出につきましては、ふるさと下関協育ネット及び放課後子供教室の運営等の委託料で1,140万8,170円となっております。

次に11ページをお願いいたします。「旧下関英国領事館隣接地公有化事業」でございます。この事業におきましては、隣接ビル用地を災害対応用地として確保して、併せまして周辺の歴史的景観を向上することを目的といたしまして、領事館隣接ビルの建物移転補償費、用地購入を行いまして、その結果、身障者用の駐車スペースを確保し、ベンチ等の設置を行いまして環境整備を行ったところでございます。下段の決算情報をお願いいたします。昨年の9月の補正予算で措置されました予算額2,598万円に対しまして、決算額は2,597万9,981円であり、主な支出については、建物の移転補償費が2,209万9,981円、それから用地購入費が388万円となっております。

最後、12ページをお願いいたします。「図書館管理運営業務」でございます。この業務におきましては、図書館システムの更新によりまして利便性が向上し、平成28年度におきましては、中段でございます事業の目標指標に記載のとおり、予約冊数が大きく向上しております。今後とも図書館資料の整備・充実を図りまして、効率的な施設運営に引き続き努めてまいります。下段の決算情報をお願いいたします。予算額3億36万6,000円に対しまして、決算額は2億9,049万9,213円でございます。主な支出の内訳につきましては、図書等の備品購入費が4,939万1,950円、それから施設の管理等に要する経費、委託料でございますが、3,313万3,987円でございます。以上、簡単ではございますが、平成28年度決算に係る報告をさせていただきます。よろしくお願いいたします。

波佐間清(教育長)

ただいま28年度の決算についての説明がございました。それではご質問、ご意見がありましたら、お願いをいたします。はい、藤井委員。

藤井悦子(教育長職務代理人)

前田砲台跡の保存整備事業について、現在は更地のような状態ですが、平成29年度における活用計画書の事業はいつ頃から着手されるのでしょうか。先の予定を教えてください。

波佐間清(教育長)

はい、文化財保護課。

沖吉洋一郎(文化財保護課長)

中段に施設の概要、計画等とありますが、そこの2番目に平成29年度における活用計画とあります。そこでVRコンテンツ活用事業というのがございまして、これは市の事業ではないのですが、関門海峡日本遺産協議会というところが文化庁の補助金を受けて行う事業でございます。そろそろ事業着手に入りまして、今年中にソフトウェアを作って来年くらいからスマートフォンなどをかざしていただくと、そこで当時の砲台が設置してあったような状況や、どこまでできる

かわからないが、空中からのパノラマ画像、アニメーションで艦隊がやってくる動画など、そのようなものが見られるようなことを実施したいと考えています。そして、その下に周辺環境整備事業とありますけれども、これは市の方で国道を挟んで反対側の民有地を賃借しまして最小限度の駐車場を確保して、利便性を高めたいと考えています。

藤井悦子(教育長職務代理者)

はい、わかりました。

波佐間清(教育長)

よろしく願います。他にご質問があれば。はい、児玉委員さん。

児玉典彦(教育委員)

2点ほど。1つは生徒の適応指導の充実に関してですが、現在「拡大アウトリーチ」ということが行われています。この「拡大アウトリーチ」の状況を、この成果と言いますか具体的な数字を教えてもらえればと思います。

波佐間清(教育長)

生徒指導推進室。

瀬下信二(生徒指導推進室長)

「拡大アウトリーチ」事業ですが、これは昨年度、国からの予算100%受けて行った事業です。完全ひきこもりの子を外に出すという事業でありまして、5名のスタッフを雇い入れて12人のひきこもりの子に対応したものです。残念ながら、昨年度を持って国の予算が打ち切りということで今年はこの事業はやっておりません。

児玉典彦(教育委員)

それに代わる手立ては考えていますか。

瀬下信二(生徒指導推進室長)

急遽、3月にその事業打ち切りという形になりましたので、その時点で今年度の「かんせい」のスタッフの中の任用を考えて、少しでも引き続き対応ができるような形ということで編成をしたところでございます。

児玉典彦(教育委員)

はい、わかりました。もう1点。外国語教育向上事業に関してですが、小学校で英語科が導入されますが、そうすると小学校の先生の負担が大きくなります。少しでも負担を軽減するためにALTが授業を企画するようなそんな力を持てば、小学校の先生が楽になると思うのですが、ALTの研修などそういう事業に向けて研修はどのように行われているのでしょうか。

波佐間清(教育長)

はい、教育研修課。

三井清(教育研修課長)

今、市内に中学校籍の英語教育推進教員が2名おります。その教員が英語に関する専門性がとても高い教員が行っておりますので、教員が核となってALTに対する研修を行っております。主に授業がない冬季休業とか夏季休業中にALTに対する研修を行って、より実践的な部分で学校での授業に役立つような研修を行っているところでございます。

児玉典彦(教育委員)

引き続きよろしく申し上げます。

波佐間清(教育長)

はい。ありがとうございます。他の委員さんありますか。はい、松田委員さん。

松田まさ子(教育委員)

図書館ですが、報告を受けて個人的なことです、スマートフォンからの予約ということで予約冊数が増えている。私もご無沙汰だったので達成率に貢献したいなと思います。そして、不登校の生徒達に対してのところで、28年度が104.6%ということで再び成果が上がっていると思うので、さらに期待したいと思います。

波佐間清(教育長)

はい。

林俊作(教育委員)

一般的な予算の組み方として、ほぼ執行率が93から95%くらいで推移しているようですが、不用額の理由が主には人件費とのことですが、これは例えばベースアップをしなかった、ボーナスを削ったということですか。例えば事務局費で10億6,000万円の予算に対して決算額が約9億9,000万円、約7,000万円の余りとなっていますが、当初予算を立てた時に、もともとベースアップをする予定で予算を組んで、結果ベースアップをしなかった、ボーナスの支給率は下がったなど。

波佐間清(教育長)

では、部長の方から。

萬松佳行(教育部長)

人件費については、前年度の12月の時点の在籍職員で職員課で予算を組みますので、人事異動等によって人数が変われば当初の予算に対して不用額が出ますから、それについては、年度途中で12月に人件費の補正をしますので、人件費が余るということはほとんどなく、仮に余るような理由があるとすれば、突発的な休職者があり給料が不用になったとか、そういった理由で人件費が余るというような形になりますが、それ以外の理由はあまり考えにくいところでございます。

林俊作(教育委員)

結局、例えば事務局費の予算額10億6,000万円に対して決算額が9億9,000万円、余りが7,000万円。そのうち、主たるものが人件費ということではないということですね。実施予定の事業が、記載されている色々な事業が減ったと。学校関係も全部そうですよね。なので、主なもの人件費と言われると、4%近く人件費が余るとなるが、人件費はほぼ予定どおりに組むというイメージでいいんですね。

波佐間清(教育長)

はい、伊藤理事。

伊藤信彦(教育部理事)

教育総務費、特に事務局費でそのようなご質問かと思われ。ここで人件費ということでお話させていただきましたが、その他に事務局費の中に、私学振興の項目もありますので、諸々の事業の中での執行残とお考えいただいた方がいいかなと思います。

林俊作(教育委員)

わかりました。あと、もう1つ。この色々と事業を成果ということで一覧を出していただいておりますなかで、Dという評価がついているのが2項目、8ページと9ページ。あと、Cというのが計画通りの進捗ということですから、基本C以上のものは問題ないと思いますが、Dという評価が2つ。前田砲台については28年度に行うべきことは発掘調査であった。これが予定どおり調査ができてないからDという評価になったという意味なのでしょうか。29年度中にはVRコンテンツ活用事業、周辺環境整備事業ということを行うことによって、この遅れは取り戻せるという評価になるのでしょうか。

波佐間清(教育長)

8ページ、9ページのところのD評価ですね。特に前田砲台のことについての質問です。文化財保護課。

沖吉洋一郎(文化財保護課長)

前田砲台のD評価について説明をさせていただきます。前田砲台跡の保存整備事業の本来の目的は、国指定史跡になっておりますので、史跡としてきちんと整備して行くということが本来の事業内容であります。そのためには、整備基本計画を作ってそれから基本設計、実施設計、整備工事という流れが必要なのですが、現下の厳しい財政状況を鑑みたら、なかなかそれが進展しないというのが現状でございます。そういうことを踏まえてD評価にしております。ただ、そうは言いましても、そのまま放置していいという訳にはいきませんので、できる限り現状で国の予算等も使いながら、有効活用していくということで、VRコンテンツの活用事業であるとか、日本遺産の構成文化財として活用していくという方向での道筋を今後考えていきたいと思っています。

林俊作(教育委員)

遅れを今年度で取り戻すということには結果としてはならないけれども、ゆっくり実施していくというような感じのイメージなのでしょうか。

波佐間清(教育長)

はい、課長。

沖吉洋一郎(文化財保護課長)

本来でしたら、先ほど申しましたように史跡整備を粛々と進めていきたいというのが本音なのです、それをすると将来的に莫大な経費が必要になってくるので、現下の状況を考えるとなかなか進んでいかないという状況になりますので、一旦そのようなものと切り離して現状で有効活用ができるような方策を今主眼に考えているところであります。

林俊作(教育委員)

はい。わかりました。もう1つの方、8ページの「学校・家庭・地域の連携協力推進事業」。こちらもD評価となっておりますが、これはいわゆる協育ネットや放課後子供教室の人材が不足し、実施が難しいというイメージですか。

波佐間清(教育長)

はい、生涯学習課。

中嶋浩昭(生涯学習課長)

この「学校・家庭・地域の連携協力推進事業」でございますが、内容は、ふるさと下関協育ネット、それから放課後子供教室の教室数、あるいは団体数の数ということですが、やはり地域でそういうお世話をしていただくコーディネーターさんをいかに発掘し、あるいは育てていくかというところが大きな課題となっております。現状では、実際にそういう方を見つけたり、やっ

ていただく方を後押ししていくというところが難しいという課題がございます。目標としてはやっていきたいという目標を掲げつつも現状としてそこは難しいというところになっております。以上でございます。

林俊作(教育委員)

はい。わかりました。以上です。

波佐間清(教育長)

よろしいですか。その他ございますでしょうか。それではただいまの説明で報告済みということにしたいと思えます。

#### 【報告事項】

平成29年度全国学力・学習状況調査における下関市の結果分析について

波佐間清(教育長)

続きまして、「平成29年度全国学力・学習状況調査における下関市の結果分析について」をお願いいたします。教育研修課。

三井清(教育研修課長)

よろしくお願いたします。資料13ページからになります。去る4月18日に実施されました平成29年度全国学力・学習状況調査の結果について、ご報告いたします。この調査は、義務教育の機会均等とその水準の維持向上の観点から、全国的な児童生徒の学力や学習状況を把握・分析し、教育施策の成果と課題を検証し、その改善を図ることを目的として実施されております。今年度の実施対象及び教科については、小学校6年生が国語・算数、中学校3年生が国語・数学でした。実施校数は、小学校48校、中学校22校です。小学校は、豊田中小学校に6年生が在籍しておりませんでしたので、48校となっております。それでは、結果についてご説明させていただきます。資料1をご覧ください。問題は国語及び算数・数学についてはA問題とB問題に分かれており、A問題は主として「知識」に関する問題、B問題は主として学んだことの「活用」に関する問題でございます。小学校・中学校とも、平均正答率の一覧を掲載しております。なお、昨年度までは、平均正答率を小数点以下第一位まで公表しておりましたが、学力面において、細かい桁における微小な差異は実質的な違いを示すものではないとして、今年度より、文部科学省から公表される都道府県・市町村・学校の平均正答率については、整数値で示されております。それでは、下関市の結果を整数値でご紹介しますと、小学校国語Aの平均正答率は、76ポイント。国語Bが57ポイント。算数Aが79ポイント。算数Bが45ポイントでした。中学校は国語Aが77ポイント。国語Bが72ポイント。数学Aが64ポイント。数学Bが48ポイントでございました。続いて2枚目をご覧ください。本調査が再び全国での悉皆調査となった平成25年度からの平均正答率を一覧表にしております。まずは、左半分の小学校です。平成26年度までは、全国の平均正答率を下回る教科がありましたが、平成27年度、28年度においては全ての教科において全国の平均正答率を上回りました。今年度は「知識」に関するA問題は国語・算数ともに全国の平均正答率を上回りましたが、「活用」に関するB問題は国語・算数ともに全国の平均正答率より下回る結果になりました。次に、右半分の中学校です。中学校については、すべての問題において、全国の平均正答率とほぼ同等の結果となっております。続いて3枚目、4枚目をご覧ください。教科に関する調査の設問別の正答率や児童生徒の生活や学習の様子をアンケート形式で問う児童生徒質問紙調査の結果分析から、学力向上に向けての課題と取り組みをまとめています。教科に関する結果からは、特に顕著な点を、国語から1点、算数・数学から2点ほど取り上げてお示ししております。児童生徒質問紙の結果からは、小・中共通してみられた成果と課題の顕著な点を取り上げています。今後、継続して取り組むこととして4点ほど挙げております。「漢字や計算などの基礎的な学習を充実させる」、「複数の資料から必要な情報を読み取り、それを基に分かったことや考えたことを書いたり説明したりする活動を仕組む」、「テレビ等の視聴

時間や就寝時刻、読書習慣等の話題にふれ、児童生徒に基本的な生活習慣が身に付くよう家庭に働きかける」「コミュニティ・スクールを積極的に活用した取り組みを行う」を、挙げています。また、今後さらに力を入れて取り組むことは4点。「学習内容の系統性を意識し、各学年で学習内容を確実に指導するとともに、小中連携をなめらかにするとともに、合同研修会を行ったり連携カリキュラムを作成したりする」、「根拠を明確にして書いたり、説明したりする言語活動を積極的に仕組む」「算数・数学科で継続した課題としてあげられている「割合」の学習とともに、「図形」の学習についても、教材や授業展開の工夫を図る」「新学習指導要領の実施にともなう改訂点を意識して、教育課程の編成や授業改善、校内研修体制の見直しを行う」を挙げております。各学校においては、各種学力調査等を活用して、結果の分析、課題把握を行い、児童生徒の実態や各学校の実情に応じて組織的な取り組みを進めていく、いわゆる検証・改善を年間2回のサイクルで実施し、子供達一人ひとりの学力向上に向けた取り組みをより一層推進します。今回お示したのは1回の調査結果ですが、平均正答率のみに一喜一憂することなく、各校と協力しながら、児童生徒一人ひとりの課題を明らかにして課題解決を図ることが重要であります。「15歳の心の教育と学力保障」をめざし、これからも学力向上に向けて取り組みたいと考えております。以上、ご報告いたします。

波佐間清(教育長)

はい。ただいま報告がございましたが、この件についてご質問、ご意見がありましたらお願いをいたします。はい、児玉委員。

児玉典彦(教育委員)

私は現場におりまして、小学校の時の学力の格差を中学校で埋めるということは、至難の業だなと思っていました。特に、小学校の段階で、分数・小数のところをつまづいた子供に、中学校の段階でそれを指導することは大変困難をきたしておりました。是非、小学校の段階で分数・小数の基礎がきちんと定着するように各学校に指導をお願いしたいと思います。ただ、私は、この夏休みに孫の宿題をみて痛感したことは、学校だけではとてもではないけれど子供に学力をつけるということは難しい。やはり家庭の、特に夏休みの長期40日間、家庭に預けた時に、家庭の教育力の差がものすごく大きく出ると思います。是非ともこれを継続して取り組むことの前に、基本的な生活習慣が身につくように指導するべきだと思います。できるだけ早い段階、就学前の段階で保護者にしっかり周知するようにお願いしたいと思います。これからの学力向上の鍵を握るのは、就学前に保護者にどれだけ基本的な生活習慣の重要性を意識させることができるか、そこにかかっていることを私自身痛感しました。以上です。

波佐間清(教育長)

はい。ありがとうございます。ご意見ありますか。はい、課長。

三井清(教育研修課長)

ご意見ありがとうございます。小学校の中でもやはり分数や小数、継続的な課題となっている割合など、子供達が苦手とする部分がある程度明らかになっていると思います。その点を県教委が作っております「やまぐちっ子学習プリント」等を活用しながら、各学校で実情に応じた取り組みを推進してまいりたいと思います。それから、家庭との連携につきましては、また、新たなご視点をいただきましてありがとうございます。小学校の仮入学・予備入学等々がありますので、その際を利用して保護者への意識を高めるような取り組みを各学校で促すように、また、これからも学校に指導・助言してまいりたいと思います。ありがとうございます。

波佐間清(教育長)

はい。今日の新聞にも出ておりましたが、山の田校区において市立大学の学生達が夏休みを利用して、学習の支援などの活動をしていると。その他にも、今市内では様々なそういう小中連携も含めて、取り組みを行っているところもあると思います。その辺のところを少しお話しいただ

けますか。はい、教育研修課長。

三井清(教育研修課長)

例えば、豊浦小学校ではコミュニティ・スクールの仕組みを利用して、漢字検定や英語の検定を行っておられて、すべての運営が学校からある程度離れて、自分達で自立的に運営できているという素晴らしい取り組みがあると聞いております。それから、子供達が学校が好きだという割合が、山口県や全国に比べて随分高いというのが下関市の特徴であります。各学校の先生方がきちっと努力していただいて、子供達が学校を好きにするにはどうしたらいいかという取り組みが進んでいるのではないかとということも加えさせていただきます。

波佐間清(教育長)

ありがとうございました。学力の向上については各学校、様々な取り組みをしております。その辺の成果が上手く出たこと、まだ十分でないところ等あると思いますが、また、個別にも各学校にしっかりと指導をしていきたいというふうに思っております。それでは、このことについては報告済みでよろしいですか。

(はい)

波佐間清(教育長)

それでは、報告済みといたします。

#### 【報告事項】

国指定天然記念物「川棚のクスの森」について

波佐間清(教育長)

続きまして、「国指定天然記念物「川棚のクスの森」について」報告をお願いいたします。豊浦教育支所。

日吉克浩(豊浦教育支所長)

豊浦教育支所の日吉でございます。それでは、「国指定天然記念物「川棚のクスの森」について」報告をさせていただきます。17ページからお願いします。平成29年7月14日、「川棚のクスの森」が所在する地元の「川棚のクスの森を守る会」会長から、「クスノキの葉が一部枯れている」との連絡が豊浦教育支所にありました。7月19日及び24日に下関市内の造園業者及び樹木医に診てもらいましたが、原因の特定には至りませんでしたので、樹木医で組織する山口県樹木医会に診断を依頼し、8月8日に現地調査を実施し、同じく8月11日に総合診断結果に基づく対応策を実施いたしました。その結果及び対応について、ご報告いたします。それでは18ページ。「川棚のクスの森」診断報告・対応策について」と、本日席上配布をしておりますカラー写真をご覧ください。現地での樹勢診断年月日は、平成29年8月8日火曜日に実施いたしました。樹勢診断者は特定非営利活動法人 山口県樹木医会。診断対象樹種でございますが、クスノキ、国指定天然記念物で大正11年10月12日に指定されています。推定樹齢1,000年、樹高、木の高さ25m、胸高周囲10.4m。所在は下関市豊浦町大字川棚下小野になります。診断結果でございます。地上部の衰退度判定では目視による評価基準判定では、5段階中5に近い4であり、樹勢は著しく不良と判定した。各種被害調査結果についてです。病害については認められなかった。虫害、これも認められなかった。材質腐朽、木槌による打音診断で異常音が確認された。空洞化が進んだときにコンクリートを充填しているようで、樹幹や太い枝の内部では、古くから心材腐朽が進み、加齢に伴い樹勢の衰退が徐々に進行していたと推察される。このように心材腐朽は進んでいるが、水や養分の通り道に支障が生じているような損傷は認められなかった。気象害、天候による害ですが、新芽が展開する5月の月平均気温は、平年値より1.6℃高く、降水量は121mm少なく、高温少雨であった。土壌乾燥により太い枝の葉が一斉に葉枯れするほどの異常

気象とは考えられない。また、落雷による被害は認められなかったということです。樹皮の衰退度については、樹皮を剥皮し、内樹皮や形成層の状態を観察したところ、葉枯れの進んだ枝では茶褐色に、葉の萎凋現象の見られた枝は青白色に変色しており、同化成分の通り道は不可能な状態であった。土壌断面調査について。平成24年度に「クスの森保護整備事業」をされた折に、真砂土が15cmから部分的に75cm程度客土されており、客土層にはクスノキの根系は皆無で、元の地盤からは根系が現れた。この根系の根腐れは、客土による土壌層へ空気が遮断されたことによる酸素不足によるものと推察される。このことにより光合成に必要な水分や土壌養分まで供給することができなくなり、葉の萎凋現象が発生し葉枯れに至ったと考えられる。19ページをご覧ください。総合診断結果ですが、クスノキの樹勢が衰退した主要な要因は、高樹齢による心材腐朽と「川棚クスの森保護整備事業」に伴う土壌の客土により、根系が集中する客土前の表層土壌が酸欠状態となり、細い根が根腐れしたことにより土壌水分の吸収が困難に陥ったことに併せて、新葉展開時の5月の気象条件が高温、少雨であったことなど、複合的な水分ストレスから、葉の萎凋現象や葉枯れに至ったと推察されるということです。総合診断結果に基づく対応として、9分岐した太い枝の内、7本がすでに葉枯れや萎凋現象を起こしており、現状回復は極めて困難ではありますが、現時点で葉枯れや萎凋現象がみられない2本について保存育成するため、8月11日金曜日に以下の対応策を実施いたしました。根系の集中している土壌層に酸素を注入するため、エアレーションを施工しました。DOパイプ、酸素管を埋設し、根系の伸びている土層に酸素を供給しました。併せて、先ほどのエアレーションとDOパイプの埋設をしたのち、樹勢回復が認められれば、有機質肥料や多孔質の土壌改良剤を施用いたします。当面は水やりと経過観察するしか手立てはありませんが、今後も、状況を見ながら対応を実施してまいります。以上で「国指定天然記念物「川棚のクスの森」について」の説明を終わらせていただきます。

波佐間清(教育長)

ただいま報告がございましたが、質問、ご意見がありましたらお願いいたします。はい、林委員。

林俊作(教育委員)

このような国の天然記念物は、国から年間管理費としていくらかいただけるのか。

波佐間清(教育長)

はい、お願いします。

日吉克浩(豊浦教育支所長)

市の巡視員と県の巡視員がおりまして、毎月1回、2人の方がそれぞれ違う観点から巡視をしております。外観だけの巡視となりますが、そのような管理方法と、地元「クスを守る会」という団体がございます。それは地域政策課の観光部門の予算となりますが、そちらの方が水やりや柴の管理をしておるところでございます。

林俊作(教育委員)

予算はそのぐらいですかね。そして、9分岐のうち7本は難しいということで、残りの2本を守っていこうというイメージでいいんですかね。

波佐間清(教育長)

はい、支所長。

日吉克浩(豊浦教育支所長)

内部の状況を確認したところ、そういった可能性が高い。また、樹勢が回復すればまた新たな葉や枝が出るという可能性を残しながらの判断だと思います。

林俊作(教育委員)

私も裏山に多くの木々があるが、維持管理にはとても経費がかかる。なのでしっかりお金をかけないと、台風の時折れたりして大事になったりする可能性もあると思いますよ。

波佐間清(教育長)

はい、教育支所長。

日吉克浩(豊浦教育支所長)

この「川棚のクスの森」はご神木でございます、地域の方のシンボルと言いますか、下関のシンボルでもありますので、これは豊浦教育支所も文化財保護課と共に新たな手立て、対策を練って元気になるように手立てをしていきたいと思っております。

林俊作(教育委員)

頑張ってください。

波佐間清(教育長)

はい。藤井委員さん。

藤井悦子(教育長職務代理者)

私は今年になってから2回このクスノキを見ました。まだ、寒い時期でしたが、その時には綺麗で立派な状態でした。今回のこの状態を見て愕然としました。是非、皆の力を合わせてこの木を守っていただきたいと思いました。よろしく申し上げます。

波佐間清(教育長)

はい。我々にとってもこのクスの木はとても大切な木であります。地域の方はもちろんのこと、国の指定でありますので、これを何としても守りたいという思いは強いと思います。今、樹木医の指導のもとに、少しでもクスの森が復活するようというところで、対応していただいております。少しずつ全力を挙げて守っていききたいと思っておりますので、またしっかり連携をしてやって頂ければと思います。よろしゅうございますか。

(はい)

波佐間清(教育長)

はい。それでこの件については報告済みといたします。

#### 【その他】

波佐間清(教育長)

日程3、その他でございますが何かございますでしょうか。はい、文化財保護課。

沖吉洋一郎(文化財保護課長)

文化財保護課でございます。考古博物館におきまして、9月16日土曜日から11月12日日曜日まで開催いたします特別展「遥かなる音の世界」のチラシをお配りさせていただいております。日本の古代では、祭祀などで用いられました銅鐸、鈴がついた銅鏡、音を奏でる楽器として作られました笛や琴などが出土しておりまして、市内でも綾羅木郷遺跡で弥生時代の土笛や上の山古墳などでは鈴のついた銅鏡が出土しております。この特別展では下関に関連の深い音について、弥生時代から古墳時代にかけての状況を紹介して、古代人が創造した音の世界を考えていきたいと考えております。是非、多くの方々のご来場をお待ちしております。よろしく申し上げます。

波佐間清(教育長)

はい。特別展「遙かなる音の世界」ということで、9月16日から11月12日までということですので、是非、皆さん方も足を運んでください。何かありますか。よろしいですか。はい、美術館、お願いします。

中村美幸(美術館長)

美術館でございます。よろしく申し上げます。お手元に「Shimobiでガーデンアート」のチラシをお配りさせていただいております。それについてご案内させていただきます。昨年に引き続き、2回目の開催でございます。今年は9月30日土曜日の10時から午後6時まで開催いたします。美術館を応援する有志の方の働き掛けで、美術館と美術館友の会が一緒になって、美術館の屋外で様々なアートイベントを行います。自由にどなたでも参加できるワークショップですとか、音楽、飲食など、楽しい1日を過ごしていただけたらと思います。中で、展覧会のギャラリートークなども行いますので、是非、おいでいただいて美術館を楽しんでいただければと思います。職員の皆様にもご周知いただければと思います。どうぞよろしくごお願いいたします。

波佐間清(教育長)

はい。「Shimobiでガーデンアート」ということで、昨年度からこれがスタートいたしまして、昨年度初めて私も参加をしましたが、豊浦小学校の金管クラブによってオープニングの演奏がありました。初めて美術館に来るといふ子供もたくさんおまして、子供達の色々なイベントがありますし、大人のイベントもあります。チラシをしっかりと見ていただいて、最初からでもいいし、途中からでも良いので、ワインを飲みながら、ビールを飲みながら、軽食、ジュースもありますので、楽しんでもらいたい。美術館を市民の美術館にしたいということがこの主なねらいですので、これをきっかけとしてまた美術館の色んな展覧会等にも足を運んでいただきたい。皆さん方もご家族を連れて一緒に見ていただき、会員の皆さんにもしっかりと宣伝をしていただきたいと思っておりますので、よろしくごお願いをしたいと思います。

2つほど今、その他がございましたが他にございますか。よろしいですか。委員の皆様、なにか。よろしいですか。それでは無いようですので、次回の日程であります。9月の教育委員会の定例会は9月28日木曜日15時30分から、この会場にて開催する予定でございます。委員の皆様、よろしいでしょうか。

(はい)

波佐間清(教育長)

それではよろしく申し上げます。

はい。それでは引き続き、非公開案件に移りたいと思います。議案第45号の審議に移りますが、傍聴者の皆様について最初にお話をいたしました。これからは議案審議については非公開とする旨、決定しておりますので、退席をお願いしたいと思います。

それでは議案第45号に入ります。

**【議案審議】**

議案第45号 平成30年度使用下関市立小・中学校一般図書採択について

下関市教育委員会会議規則第17条ただし書きの規定により、非公表

**【議案審議】**

議案第46号 平成30年度使用下関商業高等学校教科用図書の採択について

下関市教育委員会会議規則第17条ただし書きの規定により、非公表

**【閉会の宣告】**

波佐間清(教育長)

それでは、本日の議事はすべて終了いたしました。以上をもって定例会を終了いたします。  
お疲れでございました。

(お疲れ様でした)

署名

教育長

署名委員

署名委員

作成職員